

# 女子教育の使命

鯨坂 二夫

△ 甲南女子大学学長

敗戦後の日本の教育を原理的に支えた二本の柱。その一つはマッカーサー元帥に提出されたアメリカ教育調査団の報告書であり、いま一つは文部省によって出された「新教育指針」である。

まず前者のなかに私たちはつぎのような文言を見ることが出来る。「勉強を進める準備のすてに出来ているすべての女子には、高等教育機関への進学が速かに許されなければならない……」と。

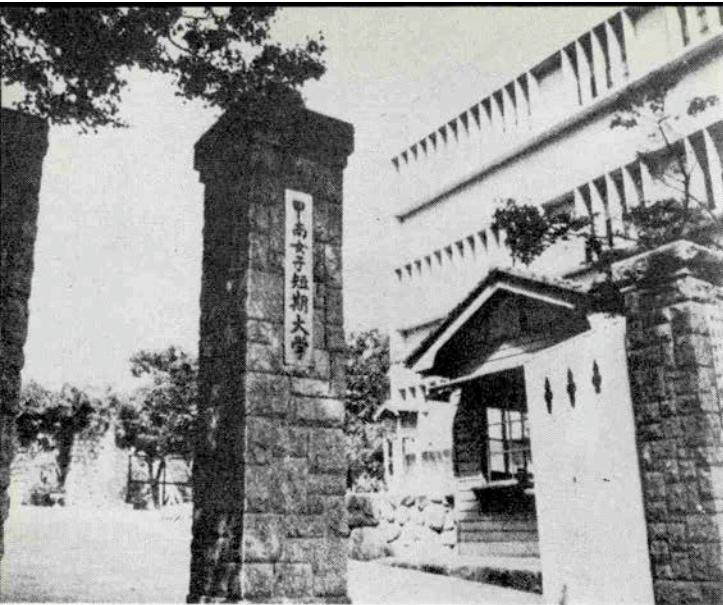
また新教育指針の中にも、女子教育の向上を強調して、男女共学を含む女子のための高等教育が提唱されている。「今日の日本において、われわれの強い関心を要求する問題はきわめて多い。中でも女子教育の向上と改善とは、最も大切な、しかもさししまった問題である。新日本建設の出発にあたり、いちはやく婦人に参政権が与えられた。

また新しい憲法の草案においては、女子に男子と同等の権利をみとめている。これによって、女子の社会的地位はいちじるしく高められ、それにもなつて責任もまたすこぶる重きを加えることとなった。……民主的な社会においては、女子が男子に協力しなければならぬとともに、男子も女子に協力しなければならない。そのためには教育に

ついても男女によって差別があるべきではない。そこで、それまで女子のためとくに欠けていた高等教育機関を拡張し、大学を男女共学にすることや、女子のための大学を新たに設けるなどが要求せられる」

そうして、女子教育のめあてとしては「女子の特質を生かすことも、もとより大切であるが、男子と共通する面を重んずることも同様に大切である。しかるにこれまでの女子には、例えば礼儀作法とか、家事裁縫とか、茶の湯・いけ花などが重んぜられ、社会問題や科学的教養を身につけさせることにおいて、すこぶる欠けていた。これから、男も女もその力を十分にのばされ、ひとなみに社会に出て考え、かつ判断する力を得るように教育されなければならない」「自ら判断し、自由な意志と責任とをもって、よいことをするという自主的な道徳が、これからの女子にはとくに必要である。また家族の幸福と同時に世間の人々の幸福を増し、社会の進歩と文化の向上とに役立つように、自分の行を自分で律してゆかなければならない」と説いている。

新しい日本建設の機運として萌えあがったこの



中学・高校と同居していた旧学会の門 昭和32年3月の第一校舎増築工事竣工後撮影

ような女子教育の向上充実の動勢は、全国を覆い、その力は甲南女子学園にも及んだのである。やがて学制の根本的な改革が行われ、六・三・三・四制の実施とともに、男子の甲南高等学校は男女共学の甲南大学として新しい進展を見せたが、女子学園は戦火による荒廃をとりもどすのにまず全力を結集しなければならなかった。その成果がようやく実ったのが昭和三十年、家政科を柱とした短期大学の創設である。初代学長は山本栄喜であった。翌三十一年、国語科を増設、短期大学は、よく社会の要請に応えたのである。私は短期大学の教育的・社会的意義を正当に評価し、是認し、それを支持する立場に立つ一人である。四年制大学の教育との比較において、それは、また、それ自体の

独自の使命を持っている。現在、我国では五一八の短期大学が存在し（四年制は四四四大学）それぞれの特色と使命に応じて、短期間ながらしかし極めて充実した教育活動が行われている。短期大学はすでに定着したと言ってよい。

やがて四年制の女子大学を、という学生や父兄の声が高まり、学園当局はその要望に應えるべく、女子大学設置の計画をととのえ、校地確保に踏み切り、遂に現在地に移転改築を見るに至った。国文学・英文学の二学科（短大の国語科は廃止）をもって、昭和三十九年甲南女子大学が創設されたのである。六甲山系の中腹に仰ぎ見る白亜の殿堂はまさに阪神間の圧観と言うべきであろう。設計は村野藤吾（文化勲章受章）、施工は大林組であった。

昭和三十九年から四十七年までは女子大学がその基礎を堅実に固めた時期であった。研究、教育、経営の困難によく耐え抜いて、やがて女子大学発展の明日を迎える。昭和四十九年、まず短期大学部に英語科を増設、多くの志願者を見た。ついで五十年、文学部に人間関係学科を増設、心理学、社会学、教育学の三専攻という新しい学問の分野を開いた。学問の研究には終極はない。それは絶えざる探究の道程である。このような熱望から五十年、大学院を開学、文学研究科修士課程国文学・英文学の二専攻を置いた。ついで、五十二年、大学院博士後期課程を設置。五十三年、文学部に新たにフランス文学科を増設、いよいよ内容の充実と多様化の整備を加え、五十四年、大学院に修士課程、社会学専攻、教育学専攻の増設の実現を見るに至ったのである。

連載随想

● ずっこけ年表〈6〉

# 雑学の すすめ

春木 一夫 (作家)

マンガ／たかはしもう



灯火親しむ雑学の秋ですゾノ

「どんな本を読んだらよいか」という質問を、しばしば受ける。

「さあーね」

と、常に返答に困る。

相手は私がもの書きだから、医者が病名を診断し、薬をくれるように、適切な答えを持っていると判断しているのだから、始末が悪い。他人にどのような本を読めばよい、などということが教えられないのなら、私はもの書きなどにはなっていないのである。

私がもの書き、特に小説家を志したのは、小説が書きたくなつたからではない。小説を読んでもさっぱりわからなかつたためである。

——わからなけりや、書けばわかるやろ……

そんなつもりでやり始めたのだが、まさかそれが本職になるうなどは、夢にも思っていなかつた。

ところが、小説家と称して世渡りをしているとまた、

「○○○という小説はどう思われますか」と聞く人がある。

そんなもの自分で理解したらええやないかと思うのだが、相手は満足しない。もそもぞしていると、

「ケチ。そんならいわんでもええ」とくる。

そんな台詞、こつちからいいたいくらいだ。なんでおれが答えにゃならんのかと、相手の身勝手さに腹が立つ。

以前、公務員の研修会に引っぱり出され、読書法を教えてやってくれと頼まれた。



「ぼく、書くことが専門ですんね」

「書くのには、他人の本も読まれるでしょう。それを教えてやっていただきたい」

「ぼくは自己流に読み、自己流に批判しているので、どないにせえなんていえまへんがな」

「そこを曲げて、どうぞ」

謝礼が安かったので断わり切れず、とうとう引きずり出された。そこで仕方なく、織田作之助の短篇集を読み、その意見を聞かせてもらい、それを私が批判するという形式をとった。研修者たちに、当日発表して貰ったが、その人たちの方が私よりも、遙かに読みが深く、私はただただ感心するばかりであった。

「結構です」

とだけいったら、皆ボカーンとしていた。

これらの事例から考えると、どうやらこの世には読書法というものがあるらしい。不敏にして、当方がそれを知らないだけである。

「読書の秋」という言葉がある。秋にならんと本が読めないのかと思っていたが、そうではないらしい。秋になると、灯火親しむべき候で、読書が進むということらしい。こちとらはそうだとすれば、年中読書の秋で、季節感を失なってしまう。温室づくりの野菜や果物のように。そこで、なぜ読書法などの指導を求められるのかについて、いろいろと考えて見た。結果、あまりよくはわからないが、読書に特別の方法があると、錯覚しているのではなからうかと思うようになった。

日本では、学校教育が発達している。何々するのには、こうこうすべきだと、先生が教えてくれる。だから社会に出て、専門家に聞けば、安直

にそうした方法がえられるのではないか……。多くの他力本願で、自分ではこうしよう、このようにしたいという自立心がちっともないわけである。他力本願の宗教を信ずるのならそれでもよからうが、読書の場合は、それではちと困るのである。私は三つか四つぐらいから、その辺にある雑誌や講談本を、片っ端から読みあさった。今でもそれと同じで、本屋で眼についた本を何の基準もなしに買いあさり、執筆に疲れたり、書くことがいやになったりした時に、読んでいる。系統的でないから、極めて雑学的である。

ところが、小説家になって見ると、意外とこの雑学が役に立った。忘れていたことは、調べさえすればよいが、そのヒントになるのは、この雑学である。以前にもラジオに出てこの雑学が役に立ち、一等の賞金五百円を稼いだことがある。

自分の人生を考えて見ても、これまで何をやってきたのか、さっぱりわからない。あっちへいたり、こっちへきたり、まさに雑人生である。学校もあちこちのぞいて、結局はどこで何を学んだのやらもはっきりしない。要するにこれも雑学である。

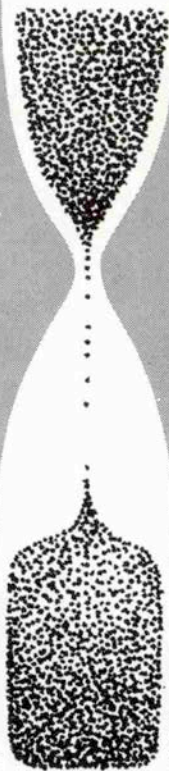
本も数十冊書いているが、これも色とりどりで何が専門なのか、本人にもよくわかっていない。いわんや、他人にわからうはずはない。だが私はそれでよいと思っている。雑学を学んで、この世を気ままに送っていく。それが私の宿命であり、またそうすることが、楽しくて楽しくて、しようがないのである。

（本代に使うほど、印税が稼げるのかいなあ・非流行作家の嘆き）

★キャンペーン

国際文化都市神戸を

考える



(24)

# 日本を代表する 博覧会ポルトピア'81

三宅 芳郎

△財団法人神戸ポルトアイランド博覧会協会事務局出展第二部長▽

柚本 敏馬

△川崎製鉄株式会社総務部主査▽

茂藤 義定

△サントリー株式会社神戸ポルトピア開設チームマネージャー▽

博覧会は楽しいものにしたいですね

昭和五十六年三月から開かれます「ポルトピア'81」(神戸ポルトアイランド博覧会)の出展、ピリオンがこのほど最終決定しました。内訳は、特別館として神戸ポルトアイランド博覧会協会、兵庫県、神戸市の三館。特設館として川崎製鉄、神戸製鋼、サントリー、三和グループ、太陽神戸銀行、ダイエー、住友グループ、三菱グループ、日本IBM、三洋電機、関西電力、大阪ガス、芙蓉グループ、第一勧銀グループ、三井グループ、松下電器、上島珈琲の十七館、他に共同館四館の合計二十四館ということです。

今日は、企業誘致に奔走されました協会事務局の三宅さん、出展第一号の川鉄の柚本さん、七〇年の万博のときのサントリー館々長の茂藤さんからいろいろとお話を

伺いたいと思います。

茂藤さんは、博覧会は今度で二回目ですね。

茂藤 万博もポルトピア'81も同じ博覧会ですが、やはり別物ですね。万博のときの資料が参考にならないとはいいませんけれど……。いくらかは役に立つでしょうけど。

三宅 しかし、単独館で一度経験されていると、博覧会に対して認識が違ってきますね。

茂藤 実は、前のときは、万博の協会事務局長以下、万国博覧会という定義が分からなかった。まず、万博とは何であるか、という理念統一のために協会の方で何回か会議をされ、勉強をされましたね。今度のポルトピア'81は、そういうことは要らないと思います。

万博は、理念に合っていたかどうかは分からないけれど、内容や規模からいって成功したと思います。うちを含めまして肩を張り過ぎたという感じがある。我々の

反省としては、もっと楽しいものにならないといけない、ということ。確かに、楽しいんですが、うちのパビリオンをみますと、映画にしましても、展示にしましてもかなり次元の高いお客さまを想定したというか、それを担当した芸術家が一つの実験の場としてやった。当然なんですけれど、そこらが私らの一つの反省ですね。今度は楽しいものになりたいという気持ちですね。しかし、さりとて遊園地のようなものを、ということではないです。柚本 私どもは、万博のときは鉄鋼連盟として共同でやったということもあって、資料も殆ど残ってなく、博覧会とはどんなものかということからスタートしたわけです。今、茂藤さんが言われましたように、楽しいものでないといけない、しやちほこばった、かた苦しいもの



茂藤 義定さん



柚本 敏馬さん



三宅 芳郎さん

では意味をなさない。なるほど、基本理念とかテーマとかには諸先生方が理想とか、あるべき姿をかかげてはありますが、やはり楽しいお祭りにしようじゃないかという主旨は一本貫かれていると思いますね。楽しさということを重視した博覧会であって欲しいと思っています。三宅 私も個人的には、今おっしゃられた通りです。ともかく、お祭りですから楽しくやらないといけない。私は常々、そういつているわけです。出展部としましてはともかく出展していただける企業に楽しいものをつくっていただく。基本は、やはり、お祭りですよ。私はそう思いますね。

——参加企業はさらに増やされるのですか。

三宅 いいえ、もうこれ以上は場所がありませんので増やされません。場所が増えると自動的に駐車場が減るんですよ。(笑) それでも、これで二回場所を増やしたんです。当初、六万平米とっていたのが、今は展示面積が七万平米になっているはず。ただ、気になるのは今の計画ではサービス・エリアが若干少ないことですね。たくさんご出展いただいて嬉しい反面、段々とサービス・エリアが狭くなる。そこを何とか考えないといけない。出展される企業に出来るだけ営業的なことをパビリオンの中でやっていただくようにお願いしているのですが。茂藤 万博のときは、外国館はレストランとかをもっていましたね。私どもも小さなスナックをもっていました。そういうサービス施設をもっていたところは多かったようです。

これは余談ですが、万博以後、ワインがもうれつに出るようになりましたね。昭和四十五年から一桁増えましてね。ワインが定着したというのは万博からですね。外国館のレストランで飲まれたのじゃないですか。

ところで、万博のときも、特に東京では極端に言えば前の年の暮まで知ってはおりますが、全然問題にしない。極論すれば無視をしている。大阪で何かやるらしい、という調子ですね。それが年を明けたら盛り上って



来た。ポルトビニア<sup>81</sup>は、そういう意味では神戸博という印象があつて、まあ、事実、神戸博なんです。万博より条件が悪い。しかし、我々もやる以上はやはりいいものにしたという気持ちです。

一般の印象では万博よりも小さいので、パビリオンもそこそこいいのじゃないかという短絡的な考え方がないとはいえない。我々、やる立場からいいますと、万博のように六千四百万人来ようが、六百万であろうが、六か月間、お客さまを迎える立場としては、パビリオンには万博のときと同じ強さと、さらにもっといい展示が必要だと思う。万博と比べてお客さまは少ないかも分らないが、会場も小さいわけですから同じことです。むしろ今度の方が単位面積当たりの密度は高いような気がするんです。万博のときは一日平均八館回ったという数字が出ていたんですが、これでも三日はたっぷりかかる。今度はコンパクトですから、動く度合いは万博より強い気がします。ですから混み具合は相当な気がする。私どものパビリオンは、形は違いますが、前回以上のものになると思います。万博のときは米ソのように大きなパビリオンがあつて、外国館にお客さまが集中したようですが、今回はほぼ同じ敷地のパビリオンですから、万博のときの国内館よりも来客される頻度は多いような気がしますね。クッションがなくて、直かに来られるような感じですね。まんべんなく来られる。

#### 展示のやり方に苦労をします

楢本 この間、協会の方で入場料を二千円と決められたのですが、たとえば夫婦と子供二人の四人で博覧会を見に行くと、入場料の他に交通費や食事代も要るし、まあ一万円はかかるわけですね。一万円も払って、貴重な時間を割いてもらうことになる、それ相応のものを責任をもって、各パビリオンともお客さまに満足してもらえようものをつくるべきではないかと思えますね。パビリオン建設に要する金額の多寡にも問題がある

んですが、要は中味で勝負しようということで、プランニングの段階で満足いただけるようなものを考えないといけないということで、企画をなんべんも練り直し、大体大詰め段階です。

要は、時間と費用をかけて来ていただくのだから、満足していただく、そして、何か考えてもらいたいなあという野心ももっているわけです。私どもは「新しい地球を考える」というテーマなんです。それこそ、博覧会の理念とかテーマには向いているのかも分らないですが、いかにしてその中にお祭りの要素を入れるか、その兼ね合いに苦心をしています。

茂藤 私が言いましたお祭りということも、もちろんテーマにのっとっての話ですが、私どももアイデアは出ているのですが、それを実際につくらないといけない。展示の方は何とかいけると思いますが、建物は少し建築的にややこしくなります。建築的に可能で、協会の基準に合つて、しかも、あらゆる面で心配のない、さらに魅力的なものをいうことで基本設計の前の段階の設計をやらせています。年内には基本設計を何とか固めてしまつて、来年春ごろまでには実設計に移りたいですね。

展示の方もいろいろと案が出ていますが、万博のときの反省で、小さな演出はあまり効果がないですね。我々つくった方は満足しますが、お客さまは急いでおられるので、凝った小さな演出をしても目に入らない。チャマとした演出ではなく、大型の演出をしないとお客さまの印象に残らないような気がしますね。苦心惨憺してつくったものの前をサツサ、サツサと通られたという経験もあります。そうはいっても大きなものばかりも出来ませんし、そこらの兼ね合いが難しいですね。お客さまの立場からみるとことは、結局、楽しいとか、びっくりするとか、面白いというものでしかないわけですからね。ですから展示は数多くつくらないで、うんと絞って大きな展示を考えています。

内容はまだハッキリしておりませんが、今度も前回同

様に「水」をテーマにしたいと思っています。正式のテーマはまだ決まっていますが、「水の遊びの博物誌」ということを仮りにしています。水の形とか、色とか、力とか、えらく抽象的ですが、そういうものを、プロデューサーの言葉によりますと、立体的に表現して展示して水の量感とか神秘さとか面白さを体験とか、見ていただくというわけです。水のマジックということでもいいかと思っています。ただ、会社の仕事にダイレクトに結びつくようなものは避けたいと思っています。

それと、導線が大事ですね。一番理想的なのは、入口から何かに乗ってスリットと自動的に出口へ出てくることなんです。そううまくはいきませんからね。導線が一番難しいですね。

柚本 先ほどサーピス・エリアをというお話でしたが、私どもは三千平米ほど敷地をもらっている中で、その中で少しは出来るのじゃないかという話もあったのですが結局は今のところはそういうものはつくるのはやめておこうとなったんです。中途半端なことをするよりも、それだけのスペースがあれば、もう少しゆとりとしたという考えです。今、導線の話もありましたが、そういうものを設置すれば流れが淀むのじゃないかという考えと、また、少しでも地球を考えてもらおうやないかというのがテーマなものですから、何か体験してもらおうコーナーをつくった方がより有効やないか、というようなこともありましてね。茂藤さんがおっしゃいましたように、導線ということをまっ先に私も社内討議でいわれまして、それを主体に展示を考えないといけないですね。それから大きなものということですが、バカでかいものをやろうとすれば地盤の関係とか、建築関係の規則も大分ありましてね。杭でも打って恒久的なものをつくれというのなら、これは問題はないのですが。

三宅 市長の考えには、もちろん、恒久施設を出来るだけ取り入れるというところはあるのですが、実際には、市の開発局で跡地利用をいろいろと考えておられるので、

必ずしも残せないわけですね。

柚本 実はある地方公共団体から私どもの展示を引き取りたいという話がありましてね。そうすると移設出来るようにつくりたいいけない。これがなかなか大変なんですよ。(笑)どこから聞かれたのかよく分からないのですが。博覧会のもと、出展したものを引き取るということは、よくあるのじゃないですか。

茂藤 万博のときもありましたね。

三宅 今考えてますのは、そういう展示関係だけではなくて、たとえば、緑化していただきたところをいただくということですね。そういう意味では、博覧会後も最大限利用出来る形では考えています。ただ、パビリオンは跡地利用がありますので残せないんです。

「ポートピア81」の愛称で売り込みましょう

三宅 私らが事務局へ来る前に、一部出ていた出展の要請のお願い状や印刷物に、神戸の経済復興とかの文字が多く、とにかく、神戸の、という極めてローカルな印象が強かったので、我々で全部変えた。そうでないと、神戸がやるのなら勝手にやれ、という感じになりますね。それはダメだから東京に対して少なくとも関西という発想でいきましょうということをやって来た。出展される企業にも大阪、東京が入っています。ですから、神戸というローカル色をあまり出すのは具合が悪い。最初のころは、何でも神戸、神戸ということを出していましたがそれだと神戸だけの博覧会になってしまう。場所は、なるほど、神戸でやるけれど、関西でやる万博以降の博覧会だという考えですね。

茂藤 まったく同感ですね。これだけの企業が出てくる博覧会はあるまいと思ふ。神戸は、この博覧会のいいところをとっていただいたらいわけですが、筋としては関西ということですね。「神戸博」という略称はあまり使わずに、ポートピア81の方がはるかにいいですね特に東京の人たちには、神戸博とか、どこそこ博とかい



う言葉はよくない。ポートピア'81一本でいくべきですね。正式名称は神戸がついていてもいいのですが。ポートピア'81はいい名前だと思いますがね。

三宅 今度のテーマソングもポートピア'81一本で通していますね。

茂藤 ビー・アールのためにはその方がいいと思います。柚本 最初の発想は、やはり、ローカル博ですね。限られたメンバーで、極めてローカルの発想でやられて、それが段々と広がって今はオール関西ということですね。しかし、こう言っては悪いのですが、スタートのつまづきがまだちよつと残っているという感じですね。だから大阪でどの程度浸透しているかという問題ですね。関西という大阪を抜きにしては考えられませんからね。

当初はマスコミにしても全然注目をしていなかった。

ところが、最近は大分変わって来ましたね。この間、経済雑誌の記者が来て、関西復権というテーマで別冊をやりたいので話を聞きたいということで、その関西復権の中に、新空港の建設、それから、今、京都で計画されている研究学園都市構想、それと、ポートピア'81。これが関西復権の三本柱の一つだというわけですね。そこらへんを聞きますとずい分変わって来ましたね。ずい分、浸透して来たなあと感じますね。この秋口になって、マスコミの感じが変わって来ましたね。その意味からいっても、神戸博というのはあまりよくないですね。せつかく輪を広げてきたのですからね。

茂藤 来年後半になれば、相当遠くの方へも浸透すると思います。本番になると盛況になると思いますよ。

三宅 今までは我々は出展企業のことを中心に考えていました。これから段々と観客動員の方へビー・アール関係も重点を移していろんな形でやりたいと思っています。今回の博覧会ではいろんな人の交流がある。東京の方がこちらへ来られたり、こちらが東京へ行ったり、ある程度そういう人の交流を考えまして、出展者会議も出来たら何回か東京でやり、それをマスコミにのせたいですね。

茂藤 万博の方も今だに同窓会が続いているんです。毎年、開会の三月十五日に大阪・閉会の九月十三日に東京で欠かさずやっていて、非常に集まりがいい。異業種の方が集まって、一つの理念に則って一つの目的のためにやったという連体感はずいぶんいいですね。みなさん、懐かしいですねえ。今回もそうなるのを楽しみにしているんですよ。

柚本 万博に直接関係した同窓会的なつながり以外に、外郭にいた人でもいろいろつながりがあるようです。三宅 こういう博覧会を担当するというのは、何十年に一回あるかないかですね。我々としても、こういう経験はなかなか出来ない貴重な得難いチャンスですね。その上、いろんな人との出会いがある。たとえ商売敵でも(笑)みんなが一つの目的のために一生懸命やって、ともかく成功させようということですね。

柚本 先ほど茂藤さんがいわれました同窓会が出来るぐらいにやらないといけないなあと感じますね。いいものを作れば、そういう集まりも自然と将来的に出来るのじゃないかと思うのですが。せつかく与えられたチャンスですから、私個人は全力投球でやりたいと思っています。茂藤 やる以上は、ポートピア'81が日本的な存在になれるように、それぐらいの内容と評価を頂けるような博覧会にしたいですね。

柚本 ポートピア'81のときには、ポートアイランドだけではなくて、神戸の町も見てもらいたいですね。遠方から来られるのなら日帰りではなく、一泊ぐらいして今度は山の上から神戸を見てもらうようなツアーとか、そういうものも組んでもらったらいいのじゃないですか。

三宅 協会としましても国鉄に新幹線「ひかり号」を全部新神戸駅に停めてくれとお願いをしたり、いろんな形で観客動員を考えています。

いずれにせよ、地方博でこれだけのスケールでやれるものは今までにもありませんし、これからも難しいのじゃないでしょうか。そういう意味では、りっぱなものにしたいし、ぜひとも成功させたいですね。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作  
神戸市葺合区旗塚通6-3-10  
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉  
神戸市生田区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三  
神戸市生田区三宮町1丁目17-4  
センタープラザ東館8F  
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男  
神戸市生田区三宮町1丁目54  
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594





ポトピア'81

## ポトピアアイランド情報

神戸ポトピアアイランド博覧会（昭和五十六年三月二十日～九月十五日開催）

# 入場料は大人二千円に決定

### ★入場料金は大人二千円

入場者数予測は六百万人

神戸ポトピアアイランド博覧会協  
会理事会在去る十月八日、貿易セ  
ンタービルで開かれ、入場料金が  
決定した。それによると、当日券の  
大人が二千円。高校生／千二百円、  
小・中学生／千円、幼児／四百円  
とし、割引制度は身体障害者およ  
び七十才以上の老人、そして夜間  
入場の半額。また前売券は二段階  
に分けて発売し、Ⅰ（一年前に発  
売）は、大人／千六百円、高校生  
／千円、小・中学生／八百円、  
Ⅱ（半年前に発売）は、大人／千  
八〇〇円、高校生／千二百円、小・  
中学生／九百円。家族連れで何度  
か入場できる料金を目指していた  
が、運営経費や開催が一年半先で  
あることを検当してこの金額に決  
定した。五枚つづりの回数券も発  
売される。

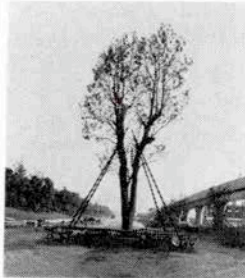
また開場時間は、開幕の三月二  
十日から四月三十日までが午前九  
時半から午後六時、五月一日から  
閉幕の九月十五日までが午前九時  
半から午後九時半と決定した。同  
時に入場者数予測に手直しが行な  
われ、今までの四百五十万人を六

百万人とし、一日の平均入場者数  
を約三万五千人、最も入場者の多  
い日を五月五日の十三万人と見込  
んでいる。

### ★ポトピア大通りに

大クスノキ植樹

ポトピアアイランドのメイン・ス  
トリート「ポトピア大通り」に  
十月七日、樹齢八十年、高さ十二  
メートルのクスノキが植えられた。同通  
りはポトピアアイランドの中公園か



ポトピア大通りに植  
えられた大クスノキ

ら南公園に至る南北延長一キロの幹  
線で、緑の多い巨大道路。今度植  
えられたクスノキは宮崎県からフ  
ェリーで運ばれたもので、中公園  
に面したグリーンベルトに植えら  
れ、ポトピア大通りのシンボル  
となる。樹種をクスノキにしたの  
は、果木であることに加え、潮風  
に強く、移植によく耐えることや  
常緑樹で緑が絶えないことから。

### ★跡地利用に科学博物館や

ファッションセンターの構想

ポトピア'81の会場跡地計画の  
ひとつとして自然科学系の博物館  
「神戸科学博物館（仮称）」の建  
設が考えられている。

その構想によると、太陽神戸銀  
行が出版するプラネタリウム館と  
隣接する神戸市出展のヒューマン  
シテイKOBÉとの二つを合わせて  
建設しようとするもので、五十  
五年度中に具体的な内容を検討し  
博覧会終了後に着工の予定。総事  
業費は約二十億円。今年七月に改  
装オープンした神戸国際港湾博物  
館や五十六年春に完成する民俗博  
物館に次いで神戸市の文化行政の  
一貫として実現するもので、内容  
や規模はかなり大きなものとなり  
そう。

また跡地利用として広大なファ  
ッション街区が計画されているが  
その一角約六千六百平方メートル、世  
界のスポーツ総合メーカ、アシ  
ックスがファッションセンターを  
建設する構想が発表された。具体  
的な計画は未定だが、スポーツと  
ファッションを結びつけた総合的  
なセンターを建設する方針。



★環境保健研究所も

ポートアイランドに移転

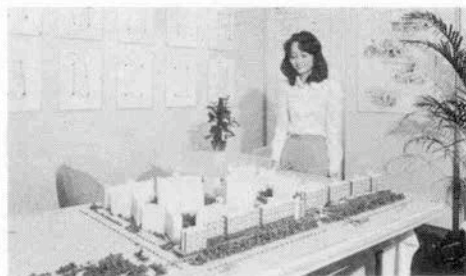
生田区加納町の中央市民病院東隣にある環境保健研究所が、ポートアイランドに移転、設備拡充することに決まった。新中央市民病院南側に建てられ、七階建て、旧研



移転される環境保健研究所

究所の二・七倍に拡張され五十六年二月完成予定。

ポートアイランドの住まいづくり



神戸国際会館にあるショールーム

ポートアイランドのコミュニティスクエアには、約六千戸の住宅が建設されるが、そのうちのひとつ、ポートアイランド住宅棟が建設するエバグリーンポートアイランドは、十四階建ての高層住宅と、四・六階建ての中層住宅からなる六百八十六戸の住まいづくり構想、住戸は4DKが中心で、北に六甲山系を望み、夜は百万ドルの神戸の夜景が満喫できる広いバルコニー、豊かな太陽の恵みをいっぱいに取り入れるサニールームなど快適な暮らしの工夫が各住戸に施されている。また一階をショッピ

同研究所は、公害などの研究も進め、チフス、コレラなどの細菌学的な検査研究をする細菌部、ウイルス主体の疫学部、病理部、食品化学部、公害検査部などがあるが、新研究所の建設によって生物災害を防止するための高度安全施設や、高性能の検査施設が導入される。総事業費は十八億円。

★ポートピアのPRに

駅スタンプ

ポートピア81のPRにと、国鉄三ノ宮駅と新神戸駅に、「駅スタンプ」が登場。

この二つのスタンプは、全国の駅スタンプを集めている葺合区に住む清元正一さんが自らデザインして、大阪鉄道管理局と博覧会事務局の承認を得て、両駅にプレゼントしたものだ。

三ノ宮駅のスタンプは、一辺が



収集家に人気を集める  
新神戸駅に置かれたスタンプ

八・五センチの正方形で、ポートアイランドの形や、来年一月から運転される新快速シティーライナー、カモメがデザインされている。また新神戸駅のものには、直径九センチの円形。博覧会会場のほか、見学者の様子、風見鶏の館、新幹線などの図柄。

新神戸駅には鉄道記念日の十月十四日から、三ノ宮駅はスタンプの訂正個所があったため一週間おくれて登場。これによって多くの人たちにポートピア81を知ってもらえるだろうと期待している。

ングプロムナードとし、専門店や量販店をはじめ、バラエティに富んだ店が出店する予定。完成は五十六年春の予定で、来春には販売されるが、すでに神戸国際会館三階にショールームができ、エバグリーンポートアイランドの案内をしている。神戸のもつ素晴らしい景観を生かした美しさと変化に富んだ景観形成構想をとり入れたこの住宅計画は充分に市民の期待に応え得るプランとなっているようだ。

エバグリーンポートアイランドショールーム／神戸市葺合区御幸通八丁目一〇九五八  
神戸国際会館三階 電話 〇七八—二五六一

## 経済ポケット ジャーナル

### ★日本真珠輸出組合 創立二十五周年

急成長による過剰生産や  
値崩れ輸出のため、昭和四  
十二年度から始まった真珠  
業界の長期不況は四十七年  
まで続き、以後回復にむか  
つてきていたが、実質的に



あいさつをする金井厚理理事長

不況が終了したのは今年、  
ちょうど日本真珠輸出組合  
△金井厚理理事長△が創立二  
十五周年を迎える。今年は  
八月までの輸出量は対前年  
比一〇・八％増、価格は一  
二・二％増と順調。過剰生  
産体制の是正や国内と欧州  
市場への販路開拓の成功な  
どがその原因とされている  
が、シックで落ち着いたも



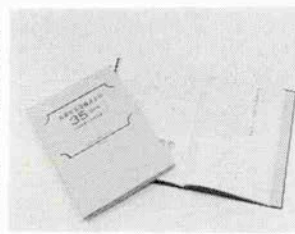
のを求める最近のファッ  
ション動向にも関係がある  
という声もきかれる。

去る十月三日に同組合の  
創立二十五周年記念式典が  
オリエンタルホテルで開か  
れたが、役員功労者や職員  
永年勤続者が表彰され、関  
係者は明るい表情。

#### ★花の会社の社史刊行

切花・植木の鉢物・園芸  
資材などを取扱う兵庫県生  
花株式会社森祐造社長△が今  
年で創立35周年。同社は戦時  
中の昭和十九年十月に国策  
により十社が合併してでき  
た企業で、豊中市にある大  
阪営業所も今年で開所30年  
となるため、社史発刊の準  
備をすすめていた。

この業界で、会社の歴史  
を纏め発刊したのは、全国  
でも初めての試みで、前社  
長の故岡田昌智氏の遺志を  
受けて、石丸数雄会長をは  
じめ、現役員の熱意のあら  
われが実ったものだ。



「兵庫県生花株式会社35周年史」

内容はA4判、204頁で、  
業界の移り変わりを盛り込  
んだ、自社の歴史を中心に、  
生産者・販売者・会社の座  
談会を収録し、また、特別  
に記念論文を学識経験者か  
ら寄稿を受けて掲載してい  
る。

35周年記念式典を行う、  
11月18日に関係者へ配布さ  
れる。

（お問い合わせは神戸市東灘  
区深江浜町1-1 兵庫県  
生花株式会社（451）8  
900）

#### ★コンタクトレンズ全般の 相談を承っています

コンタクトレンズには専  
門医の指導が必要だが、「神  
戸メディカルコンタクト」  
では、専門医が指導に当た  
り、また、快適な装用のため  
に、あらゆる種類のコンタ  
クトレンズの附属品・クリ  
ナー、保存液、コンパクト  
な消毒液などが揃っている  
相談コーナーも設けら

れ、コンタクトレンズに関  
するあらゆる相談を受けつ  
けている。

また、併設の「神戸ファ  
ミリーファーマシー」では  
薬剤師が専門の立場から選  
りすぐれた純正薬品のみを  
販売している。

神戸市東灘区宮本通五丁目（市バス  
上筒井6丁目停留所前広道下二丁  
有沢眼科隣）平日8・30AM～6・  
00PM、木・土は午前中。  
電話241-6050

#### ★キリンシエラムから 新製品「エンブレム」

ロバートブラウンのキ  
リンシエラムから新製品エ  
ンブレムが10月18日に全国  
一斉発売された。

近年日本人のウイスキー  
に対する嗜好は上級移行の  
傾向にあり、特級ウイスキ  
ーが大幅な伸びを示してき  
たことから、高品質で本格  
的な味覚をもった新製品の



新発売「エンブレム」

発売となったもので、シ  
ーバブラザーズ社の職人気  
質、シーグラム社の完全主  
義、キリンビール社の品質  
本位の三つの主張の結晶と  
する高級ウイスキー。

エンブレム特級43度、760ml  
3000円

# 純白無垢

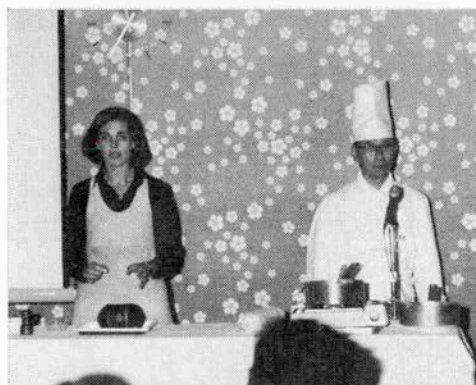


ドイツ菓子 *Fachheim's*  
ユーハイム

本 店 三 宮 生 田 神 社 前 TEL (331) 1694  
三 宮 店 三 宮 大 丸 前 TEL (331) 2101  
さん ち か 店 三 宮 地下街スイーツタウン内 TEL (391) 3539  
西 ド イ ツ 店 フランクフルトゲートハウス内 TEL (0611) 280262

# オリエンタル レディスクラブ

会 員 募 集 中



月例グルメの会：世界の料理めぐり(アルゼンチン)

年会費：お一人 5,000円

割 引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル  
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたし  
ます。その他いろいろの特典がございます。

特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

☎ (078) 331-8111



## ■座談会／旅の文化誌『旅行アサヒ』再刊記念



## 日本列島を11タウン誌で結ぶ

— 地方文化を基盤に、若さと叡知を結集して —

△出席者▽

林屋克三郎 △静岡・豆州かわら版▽

大橋一範 △東京・週刊きんじょうじ▽

半田宣雄 △長野・松本情報▽

金子 健樹 △石川・おあしす▽

小泉康夫 △本誌月刊神戸っ子▽

★日本列島をくまなくタウン誌で結ぼう

林屋 『旅行アサヒ』の創刊ということは、全国の有力タウン誌が一堂に集まって一つの雑誌をつくるという点がまず第一の特長です。地方に隠れたさまざまなものをコンクリートジャングルの中で疲れ切った現代の日本人に紹介することによって、日本とは何かを再発見し、心のふるさとを見つけ出すきっかけになりたいものです。

大橋 私は東京に居ますが、東京の間人もやはり東京の中におけるローカルティを見てゆく必要性があると感じるのです。東京生まれの東京育ちという人でも自分の原点は一体何なのかを見直すときが今来ていると思うのです。現代社会では人間は移動する存在であって、その意味では流民であるわけですが、そうであればこそ、自分自身の生まれたところ、育ったところを自分なりに認識しつつ生きて、たとえ流民であつても大地にしっかりと根をおろした文化を創ってゆかねばならない。地球が狭くなって国際人として活躍しなければならぬ機会が多くなるのですが、国際人として立派にやってゆける人間というのは自分自身のローカルティを絶対にはつきりさせていなければならない。その意味で『旅行アサヒ』の創刊は単に地方の文化を中央で紹介するだけでなく、日本人が国際人として活躍するためにどうしても必要な口

ーカルティというファクターをさらに強化するという意味からも素晴らしい試みだと考えます。

金子 今言われている「地方の時代」というのは明治以来の中央集権的な体制が今やどうしようもなくなくなって、そのしわ寄せを地方へ押しつけようとしているとも考えられます。つまり「地方の時代」ということばにすら中央集権的志向が感じられるところにいささか抵抗があるのです。ところが今『旅行アサヒ』の創刊をめざして盛り上っている若い力というのはそれぞれの地方で培われてきた文化の結集であり、それを一つのものにまとめることによって中央集権的発想でない、下からの盛り上がりによる新しい「地方の時代」をつくりあげる可能性を秘めていると考えるのです。

私は金沢に居ますが、明治維新からのちは「裏日本」と呼ばれ、そのおかげである意味で伝統文化を頑固に守ってやることもできました。しかしこの二、三十年間の日本の歩みというものはそのような伝統文化の存続すら危なくなってきたのです。全国のタウン誌の結集による新しい「地方の時代」の創造ももっと早くやらねばならなかったわけですが、まだまだ地方の文化は脈々と生き続けています。これをこれからは大切に育て大きな花を咲かせることが私たちの世代の任務と考えるのです。

林屋 「地方の時代」と今になって言われていますが、これが本来のあるべき姿だと思っております。人間の体に頭や顔や手や足があって、それぞれに手は手の機能、足は足の機能があります。足が手の真似をしても手が足の真似をしても全体としてうまくいかない。ところが、これまでの日本はテレビを媒体にして手も足も顔もみんなが同じことをさせようとしていたのです。その結果として足は衰える、手は衰えるということになって今あわてて足には足の役割を、手には手の役割をしてもらおうというのが「地方の時代」が大きく叫ばれていることの内容だと思うのですが。

小泉 「タウン誌」ということばが誕生してまだ十年しか経っていないのです。その間それぞれのタウン誌が、それぞれの地域の中で五年、十年と文化・経済・社会と結びついて発展してきました。もともと早くすべきだという声もありましたが、私は各タウン誌が外へ発展する力を備え、たとえ中央集権的志向であっても「地方の時代」と言われる今こそ全国のタウン誌が結集するもっとも良い時期ではないかと確信しています。今、北海道から沖縄まで、十一社の同志が集まって結集したのですが、この十一社だけにとどまっては決してならない。さらに多くの参加を求め、二十社、二十五社とその数を伸ばし、日本列島をくまなくタウン誌で結んでゆかねばなりませんね。

★旅の心をとり戻すためにはジャーナルの指導性が必要  
林屋 現代の日本の旅は上つた旅ですね。いわゆる「アンノン族」と呼ばれる人々がつくり出され旅のブームが起こって、それはそれなりに良い面もあったけれど

悪い面もまた大きかった。アンノン族の追った旅というのは、どこに道祖神ミチノコがあります、ここでは何祭りがあります、喫茶店があります、という程度のことだったのです。どうしてもそこに道祖神があるのか、なぜここに祭りがあるのかというところまで行かないのです。祭りが発生する歴史の裏には必ずといってよいほど常に悲劇が存在しています。しかし、アンノン族の旅には祭りや道祖神がどうして生まれどのような影響を与え、人々のところにどれほど強く浸透しているかという視点が一切省かれていた。それはまた、そのような旅のブームを演出したジャーナリズムの責任でもあって、『旅行アサヒ』は上つた旅でなく日本の心、旅の心を大切にす雑誌でありたいものです。

大橋 一つの駅に降りればそこで一週間はすごしてみろという滞在型の旅というのが本来の旅であり、これから求められる本来の旅だと思っております。滞在してその土地の人々の日常に触れ、自分自身もある程度日常生活をやってみる余裕が必要ではないでしょうか。

金子 それは絶対に必要なことですね。今簡単に「旅」と呼ばれている言葉の中には、本来の旅、それから旅行最後に単なる空間的移動の三つのものを旅という言葉で表現している。この三つの中で現代の日本人のしている旅の大部分は空間的移動にすぎない。仕事のための出張でも旅と錯覚している人もいます。旅というのは芭蕉が自分の人生を賭けて旅に出、その中で自分自身を見つめ直し、芸術作品をつくりあげて行った、そのようなものであるはずで、日本人の旅に対する考えには芭蕉、鴨長明をはじめとする「旅即ち人生」「人生即ち旅」という



林屋克三郎さん



大橋一範さん



金子健樹さん



半田宣雄さん



本誌 小泉康夫

旅の哲学があつて、そこには人間の生き方、生あるものに対する愛情といった宇宙精神にも通ずる大きなものが含まれているのですね。空間的移動しか与えられていない現代の日本人に旅の心、旅の哲学を伝え、人生の糧となり、明日への希望を生み出す本来の旅をつくりあげてゆく手助けをすることも『旅行アサヒ』の大きな任務の一つでしょうね。

半田 ほんものの旅の楽しさ、深さ、喜び、人と人との触れ合い、感動というものを、パッケージツアーやアンノン旅行だけしか知らない人にぜひ知らせてあげたいものですね。

金子 金沢の姉妹都市にベルギーのゲットーという町があります。パリと肩を並べるほどの古い歴史を持った町が化石のように残り、そこで人々が生活しているのですね。この町を訪れた時のことですが、ロンドンからドーバー海峡を渡って行きました。できるかどうかかわからなかったのですが、町の当局へ連絡しておいて「民泊したい」という希望を伝えておいたのです。オランダ語はわからないし、大丈夫かなと心配していましたら駅を降りるなり「金子さんですか」と日本語が聞こえるんですね。町の当局が日本語のできる人を捜して迎えにきてくれたのです。泊った家は夫婦と子どもの四人家族でお父さんがピアノを弾いて歌って歓迎してくれましたが、こんな感激したことはありませんでした。そんな楽しいところをコッソコと見つけて『旅行アサヒ』に紹介してゆけば非常に楽しいものになりますね。

半田 ところがあまりいいところを紹介すると、いわゆる観光客がワッと行ってその土地が見る影もないほどに荒されてしまう。旅行エージェンツなどの旅行を専門にしている人たちは自分のほんとうに気に入った場所というのをなかなか教えない。いったんくずれてしまうと町の良さはもうもとに戻らない。そういうジレンマがつきまとうのではないかと心配するのですが。

小泉 だからこそ『旅行アサヒ』は単なる旅のガイドブ

ックであつては決してならない。旅の心を伝え、本来の旅のあり方を主張する雑誌でなければならぬ。そこに『旅行アサヒ』がこれまでの旅行雑誌とまったく異なる最大のポイントがあるので、それこそジャーナルが本来持つべき指導性といえるのではないのでしょうか。

★すべての旅を愛する人々のエネルギーを集めて

小泉 私は十年間、関西全域を対象にした雑誌を出版して、休刊して五年になりますが、その当時はまったく経済優先の時代でした。つまり経済が土壌で社会のしくみや行政は幹、文化は実であるという発想が圧倒的だったのですね。ところが私はその頃からそれは逆だ。文化はすべての土壌だ、社会のしくみや行政は幹であり、経済はその収穫にすぎないと主張しつづけ、やっと今それが認められたと思います。「地方」と「文化」が同時に出てきたというのは偶然ではなく深い内的必然性があるのですね。テレビを中心とする「文明」「は「中央」の考えを全国津々浦々に伝え、地方の生活に支えられた「文化」を破壊してゆきました。そしてこの「中央」「文明」というつながりだけでは現代日本をどうにも解決できなくなつて、「地方」「文化」が浮かびあがってきたと考えるのです。

林屋 「文化がすべての土壌だ」という考えにはまったく賛成ですね。戦後の旅の歴史をふり返りますと、戦後の旅は、戸塚文子さんの『旅』がリーダーとなつてつくられていったのです。その次にきた「アンノン族」の旅というのは経済的土壌の上に咲いた旅なんですね。高度経済成長の中で電鉄会社とか旅行エージェンシーがもうけることはかり考えて本来の旅をこわしてしまった。このこわされた旅を本来の姿に戻す作業、文化を土壌とした旅——これが『旅行アサヒ』のめざす旅なのです。

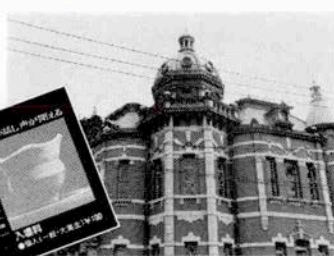
小泉 文化的視点を忘れず、国内、国外のほんとうに旅を愛する人々の支援と協力を得て『旅行アサヒ』を旅のリーダー、文化のリーダーとして育ててゆきたいものです。



# 福岡市立歴史資料館

水谷 顕介〈都市計画設計研究所所長〉

福岡市立歴史資料館の発足は、昭和四十七年十一月である。建物は、明治四十二年に完成した辰野金吾・片岡安両氏の設計で、旧日本生命保険九州支店、那珂川が博多湾にそそぐあたりに建っている。博多・福岡の町は、古代中世を通じての港町であり、海をま近かにする都市なのだが、現代では、港湾建設や埋立によってその感じが遠くなり、せつかくのこの敷地も生きていない、というのが実状



＜右＞福岡市立歴史資料館の外観  
＜左＞7月19日から8月31日まで催された「緊急発掘された遺跡と遺物」の入場切符



で残念だ。展示の内容は、先土器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、大宰府と鴻臚館、対外貿易（陶磁器）、郷土の先学、という六部門の構成をとっている。

博多湾にひろがるこの地域が、玄海灘をこえて、中国・朝鮮と交流が深く、その歴史をとおしての遺産が実に豊富であることは、いうまでもない。私の知人が福岡県の住宅課長として転動してきて、お嬢さんに、この町に住んだからには一つのテーマをきめて新聞の切抜きをやりなさいといったところ、彼女が「歴史」を選択したが、しばらくたつてもうやめたいといひ出したのでその理由を問うと、毎日毎日関係記事が多すぎて手に負えない、といったという話を聞いた。また、最近の地下鉄工事にもなる緊急発掘で、発掘品を現場に保護していたら、近所のビルの上からそれを望遠鏡でみて確認しておいた上で、計画的に泥棒した奴がいる、といった記事が新聞紙面をにぎはしたりしているのを見て、この豊富さの説明になりそうである。

常設展示だけでなく、特設展も時々開かれている。最近見たもので充実していたのは、「福岡平野の歴史、緊急発掘された遺跡と遺物」原始時代～江戸時代」と題した五二年七月～八月にかけての催しだった。ここ十数年余の間に緊急発掘した市内の八〇あまりの遺跡の調査成果とその出土品の展示公開だった。四箇田遺跡や板付遺跡での鍬・杵・鋤といった木製農具、西新町遺跡や諸岡遺跡での甕棺墓、祇園町遺跡での中国青磁など、興味深いものが多かった。

最近の新聞誌上によると（五四・九・一三、西日本夕刊）板付遺跡から、古墳時代前期の五世紀ごろのものと思われる祭祀用土師器や農耕用の木製品など約一三〇点が完全な形でこっそり見つかったという。板付遺跡は弥生時代全般を中心とする生活・生産両面を明かにしうる遺跡であり、特に稲作農耕の始まりという点で弥生時代最古のムラのひとつとされているものである。九州では、東京・京都・奈良に続いて国立博物館を建設してほしいという運動が、息ながく続けられている。中国・朝鮮などアジアとの交流のなかでのわが国の成立を語り発展させていく施設として、九州各地でのいかなる地域開発プロジェクトよりも、先行して実現させたいものだ。